

ノーリフティングポリシーの取り組み

社会福祉法人 サンライフ（愛知県）

住 所 愛知県名古屋市東区葵 3-25-23

TEL 052-856-3311

URL <http://www.e-sunlife.or.jp>

経営理念

- ・地域とともに少子高齢社会を考え、安心して未来ある街づくりに貢献します。
 - ・子どもの無限の可能性を引き出し個々のもつ力をはぐくみ、地域で育てる環境をつくります。
 - ・子どもの優しい心、豊かな心、強い心を育てます。
 - ・高齢者がもてる力を発揮して、自信と幸福を感じられる生活を支援します。
 - ・高齢者の尊厳と自己決定を尊重し、一人一人のライフスタイルを支援します。
 - ・職員がプロフェッショナルとして喜びと誇りをもち、自ら改革する力をもてるよう育成します。
 - ・法律その他基準に従って、常に組織・運営を見直します。
 - ・地域社会の変化と改革の先駆者となります。
 - ・社会福祉制度のセーフティネットとしての役割を果たします。
- ミッション「少子高齢社会をトータルサポートする」

事業内容及び定員

特別養護老人ホーム	(20名) 1か所、(30名) 2か所、(80名) 4か所、(90名) 1か所、(100名) 2か所
介護老人保健施設	(100名) 1か所、(158名) 1か所
ケアハウス	(50名) 1か所、(特定29名) 1か所
養護老人ホーム	(40名) 1か所、(50名) 1か所
認知症グループホーム	(9名) 3か所、(18名) 1か所
サービス付き高齢者向け住宅	(22戸) 1か所、(24戸) 1か所
高齢者向け優良賃貸住宅	(43戸) 1か所、(52戸) 1か所
有料老人ホーム	(住宅型37戸) 1か所、(介護付51名) 1か所
小規模多機能型居宅介護	(29名) 2か所
ショートステイ	(10名) 3ヶ所、(18名) 3ヶ所、(20名) 2か所
大型デイサービス	(110名) 1か所、(120名) 1か所
デイサービス	(10名) 2か所、(15名) 1か所、(35名) 1か所、(42名) 1か所、(50名) 1か所、(60名) 1か所
デイケア	(30名) 1か所、(70名) 1か所
生活支援短期通所事業	(2名) 1か所、生活支援通所事業 (6名) 1か所
訪問リハビリ 2か所、訪問介護 1か所、居宅介護支援センター 6か所、	
地域包括支援センター 2か所、一般賃貸住宅 (63戸) 1か所	
認可保育園	(66名) 1か所、(90名) 1か所、(120名) 1か所
学童保育所	(58名) 1か所

収 入 (法人全体) 平成26年度決算	① 社会福祉事業	5,230,966,527 円
	② 公益事業	2,488,550,737 円
	③ 収益事業	103,290,769 円
	合計	7,822,808,033 円

職 員 数
(法人全体) 1,247 名 (非常勤含む)

当 面 する
経 営 課 題

1. 介護サービスの質の向上
2. 保育・子育て支援サービスの向上
3. 社会貢献事業の推進
4. 経営意識の徹底
5. 労務管理・職員教育の徹底

取 組 みに
着 手 した
理 由、背 景

当法人では平成 18 年より利用者様の過度な身体的負担、精神的負担を軽減することや職員の過度な介助負担を軽減するための取り組みとして、ノーリフティングポリシーを導入していた。介護老人保健施設ジョイフル名駅において、平成 25 年 6 月 1 日の開設時よりノーリフティングポリシーを積極的に導入しているが、実際の現場では腰痛を感じている職員が多数存在していた。そこで、平成 27 年 1 月より、腰痛調査をもとに、腰痛を感じやすい介助場面を選定し、実際の介助場面でリハビリ職員が同席し、介護職員に対して介助しながら指導を行うことで、腰痛の軽減に取り組んでいる。

取 組 みの
現 時 点
で の 効 果

平成 26 年 11 月と平成 27 年 5 月の腰痛調査を比較すると腰痛保持者は 71%から 61%と 10% 減少した。実際に指導していても、現場の介護職員から「楽に介助が行える」との声も聞かれている。

ノーリフティングポリシー の取り組み

～ 腰痛ゼロを目指して ～

愛知県

社会福祉法人 サンライフ

介護老人保健施設 ジョイフル名駅

理学療法士 石川亜希



施設概要

- 介護老人保健施設ジョイフル名駅
- 平成25年6月1日開設
- 入所定員 100名
- 全室個室のユニット型施設
- 平均要介護度 2.75
- 入所担当リハビリ職員 常勤 4名



(平成27年7月1日現在)

はじめに

当法人の取り組み

利用者様の過度な身体的負担、精神的負担を軽減することや職員の過度な介助負担を軽減するための取り組みとして、ノーリフティングポリシー(以下NLP)を導入している

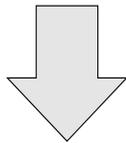
NLPとは

「適切な福祉用具を使用し、押す・引く・持ち上げる・ねじる・運ぶことを人力で絶対に行わないこと」

当施設でのNLPの取り組み

平成25年6月1日に開設

NLPの定着、浸透に向けた取り組みを行ってきた



NLPの考え方の定着

腰痛の軽減

使用している福祉用具

昇降式介助用ベッド



跳ね上げ式車いす



スライディングシート



スライディングボード



使用している福祉用具

移乗用リフト



ローラーズライドフレキシ



チルト&リクライニング式車いす



NLP紹介



- ・利用者様の能力に合わせた適切な福祉用具を使用
- ・利用者様・介助者ともに適切な体の使い方を

→利用者様の自立支援につながっていく

これまでの取り組み

腰痛 調査月	腰痛 保持率	取り組み
H26.2	69%	<ul style="list-style-type: none"> ・開設前の全体ノーリフト勉強会開催 ・業務内で異動・中途採用職員にノーリフト指導
H26.4	40% ↓	<ul style="list-style-type: none"> ・H26.3に1か月間ノーリフト直接個別指導
H26.11	71% ↑	<ul style="list-style-type: none"> ・新人職員に対してノーリフト説明 ・業務内で対応

腰痛保持者増加の原因

- ・利用者様の入れ替わり
- ・利用者様の身体状況の変化
- ・介入していない介助場面での腰痛
- ・ノーリフトの意識の低下
- ・職員間での介助方法のばらつき

→利用者様に適した介助が十分に行われていなかった

長期的な取り組み・介入場面の増加

ノーリフティングポリシー スキルアップ研修

方法

- a) 腰痛を生じやすい介助場面を、6つ選定
 - ① 起き上がり＋体位変換
 - ② スライディングシートとベッド上でのオムツ交換
 - ③ 移乗介助(リフトと一部介助)
 - ④ 移乗介助(ローラーライドフレキシとスライディングボード)
 - ⑤ 入浴介助
 - ⑥ トイレ介助

※ 1か月毎に変更

- b) 介入する利用者様を各ユニットのリーダーが選出
- c) リハビリ職員間で利用者様に対する介助方法の見直しを行う

ノーリフティングポリシー スキルアップ研修

- d) 利用者様の介助時にリハビリ職員が同席する
- e) リハビリ職員から介護職員に対して
確認・指導を行う
- f) 看護職員は全体で勉強会を開催

※期間・・・平成27年1月～7月

実際のトイレ介助指導場面

①



- ・足を踏みかえるスペースを確保する
- ・移る側の足を一步前に出しておく

②



両手で手すりを持っていただく

実際のトイレ介助指導場面

③



・利用者様自身で足を踏みかえていただく

④



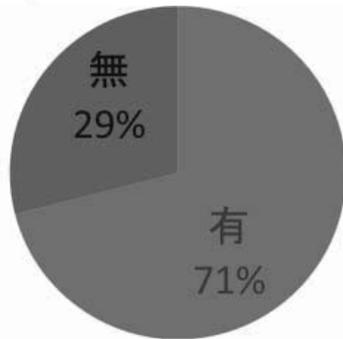
※トイレから車いすへの移乗も
同様に介助します

今回の取り組みにより

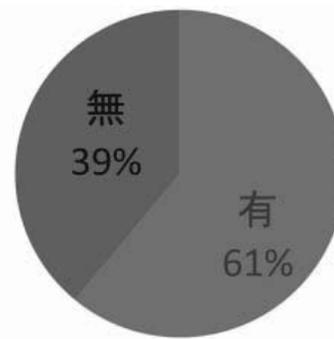
- ・ 介護・看護職員は福祉用具を活用しながら利用者様の状態に適した介助方法を提供している
- ・ 利用者様の能力を活かした介助はまだまだ改善の余地がある
- ・ 文章での介助方法の伝達だけでなく個別指導を行う
→周知が行き届くようになった

今回の取り組みにより

平成26年11月の腰痛調査



平成27年5月の腰痛調査



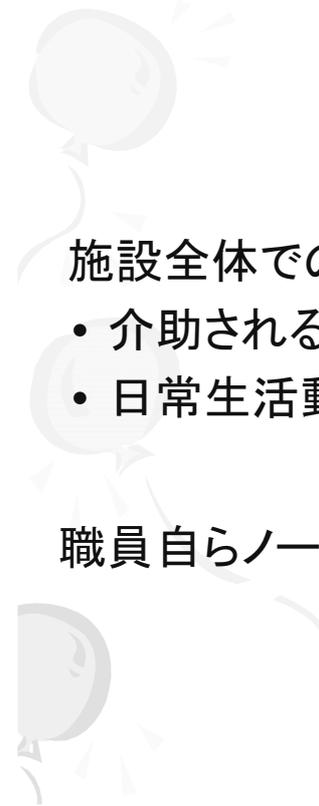
10%減!

現場の声 「楽に介助ができるようになった」
→腰痛が軽減される！

課題

- 設定した介助場面時に介護職員を集めることが難しい
→職員全体への伝達に時間がかかる
- 介護・看護職員側から介助方法について相談・提案が少ない
→利用者様の身体機能の変化に対応できていない
→無理な介助を続けている場合がある

職員全体への周知と継続した指導の確立
をどうしていくか…



対策案

施設全体でのノーリフトの勉強会の開催を行う

- 介助される体験をする
- 日常生活動作における体の構造を知る

職員自らノーリフトを考え、実践する介護を！